

ユニバーサルデザインの視点を踏まえた「学びやすさ」の構築 行動の背景を考えよう③

【指導室 特別支援教育班】



今回も、教室にいる「気になる子供の行動について、その特性や要因を踏まえて支援を講じる」です。気になる子供の学び方の特性や行動の要因が分かると、個に応じた支援（二次支援）が考えやすくなります。今回も、全体の中でできる一次支援、二次支援、三次支援の具体例も紹介します。

例 黒板の文字をノートに書いたり、音読をしたりするのに苦労している。

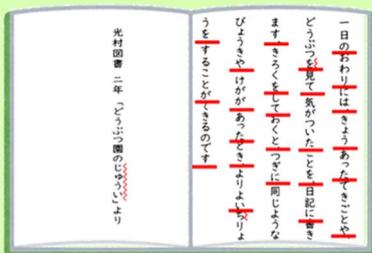


- ・ 教室内の掲示や周りの友達の様子が気になってしまうのかもしれない。
- ・ 視線を移動させて書いたり読んだりするのが苦手で、焦点を合わせているうちにどこを書いているか（読んでいるか）分からなくなるのかもしれない。
- ・ 見たものを覚えておくことが難しく、何度も黒板を見る必要があり、書き写すのに時間がかかるのかもしれない。
- ・ 文字が揺らいで見えたりにじんで見えたりしているのかもしれない。

ユニバーサルな支援（一次支援・二次支援）

- 対応例 1：黒板周りは物をなくし、棚には目隠しカーテンをするなど、集中しやすい環境をつくる。
- 対応例 2：板書の文字は適度な大きさで、行間をあげ、見やすさを意識して書く。
- 対応例 3：強調したいところは注意をひきやすいように枠で囲む。
- 対応例 4：子供のノートのマス目の数に合わせて板書の文字を折り返す。
- 対応例 5：事前に板書用の短冊を用意し、教師が書く時間を減らし、子供が書く時間を確保する。
- 対応例 6：いろいろな種類のプリントを準備する（穴埋め・ヒントがついている・線が入っている等）。

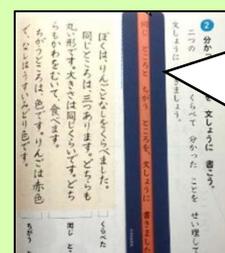
全体の中の個別の配慮（三次支援）



文節を線で区切る



単語をマーカーで塗る



読書用スリット

前後の行を隠して読みながら読み進めることができます。



ICT 機器の利用（板書の撮影）

撮影した板書を手元に置いてノートに書いて保存したりします。



音声教材の利用
（デジタル教科書等）

- ・ 文字・音声・画像を同時に再生する。
- ・ 音声で読み上げる部分の文字がハイライトされる。
- ・ 読むスピードを変えることができる。
- ・ 文字の大きさ・文字色・背景を変えることができる。

Point !

- ・ 「分かった」という達成感を一緒に喜び、苦手意識が積み重ならないように配慮します。
- ・ 個別の支援をする場合は、本人・保護者の同意と周囲の理解が大切です。
- ・ 多様性を認め合えるクラスの雰囲気づくりを大事にしましょう。